



新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

明けましておめでとうございます。

私事で恐縮ですが、昨年は観光でタイ（バンコク）、インドネシア（ジャワ）と中国（桂林）、研究のための視察でインドネシア（スマトラ）と4回もアジアの旅に出ました。9月の中国と10月のインドネシアでは異例の猛暑に深刻な気候変動を痛感しました。30年ぶりに訪れたタイではガイドさんから、郊外の水辺に自生する空心菜を「何の草か分かりますか」と尋ねられ、昔覚えたタイ語の「パッ・ブーン」という単語で即答し驚かれました。空心菜は東南アジアではありふれた野菜で、インドネシア、マレーシア、フィリピンでは「カンクン」または「カンコン」、ミャンマーでは「カズンイ

ユッ」と言います。なおタイ語の「パッ」は野菜一般のことで、コリアンダー（英語）または香菜（シャンツァイ、中国語）のことは「パッ・チー」と呼びます。日本では最近「パクチー」という呼び名が普及しましたが、日本式の発音は本家のタイでは通じないでしょう。なおインドネシアとマレーシアではクトゥムバル（ketumbar）という全く違う名で呼びます。

令和2年の今年、こんな旅の雑学も楽しみながら新しい風のもとでアジアとの交流にますます励みましょう。



タマサート大学訪問記

懇親会

タマサート大学訪問は2016年2月の三国交流会以来3年ぶりです。今回は日本からの会員が7名とインド在住の会員1名の計8名の訪問団となりました。17日の夜は元留学生や元Iメイト学生も招待し、タサニー先生をはじめとする日本語学科の先生たち、Iメイト学生、OGであちこちに話の輪が広がり盛大な懇親会となりました。本場のタイ料理で乾杯し、皆あつという間に家族のような親しさを感じ、和気あいあいと楽しい時間が過ぎていきました。

詩歌朗読コンテスト

翌日は9時前にキャンパス着きました。溢れる南国の花と共に池に棲むオオトカゲが訪問団を迎えてくれました。メインイベントは日本語学科の学生19人による日本の詩朗読コンテストです。4名の会員が審査員となり、正会員石橋順子審査委員長のもと審査が行われました。金子みすず、谷川俊太郎、中原中也、茨木のり子、宮沢賢治の詩を5人ずつで朗読し、それぞれの詩の中で1名ずつ優秀者が選ばれました。朗読した学生は、詩の情景もよく理解し、感情を込めて朗読し、甲乙つけ難い出来栄でしたが、審査の結果、ワシニーブソムさん、クリッティヤワーラーラットさん、カモンナットタンセーリーさん、ワーシターサエリムさん、ジランマオミーサップさんが優秀賞に選ばれました。



〈オオトカゲ〉

世界遺産アユタヤ遺跡見学

コンテストの後は訪問団と先生、学生が皆一緒にマイクロバス2台でアユタヤ遺跡の見学に出かけました。14世紀から18世紀まで400年も栄えたアユタヤ王朝の遺跡が広がる大地は広大で、修復された仏像や、歴史公園内のワットプラシーサンペットの迫りに圧倒され、一同言葉を無くしじっと見入りました。ワットマハータートの木の根に彫り込まれた仏像の頭もとても興味深く、学生の



〈アユタヤ遺跡〉

説明を受けながら、アユタヤ王朝の歴史、タイ国の歴史に思いを馳せたツアーでした。遠くインドから訪問ツアーに参加された、石橋久さんの感想をご紹介します。

(理事 古海 正子)

交流会に参加して

まるで街の様な広大なタマサート大学ランシット校の敷地を巡り、交流会の会場となる校舎に到着した。教室に入ると、詩の朗読の順番を待つ学生の高揚した姿と、運営の学生の最終確認を行う姿に、交流会に対する学生の真摯な取り組みを肌で感じる事ができた。そして、司会の学生による朗読者と詩の紹介と共に19名の朗読会が始まった。



〈中央が石橋さん〉

学生自身が課題の中から選んだ詩を、各人がその詩の情景を解釈して心を込めて朗読した。当然、学生の日本語のレベルによる抑揚や間の微妙な違いがあり、これが評価の差となったのだが、皆が真剣に取り組んできた努力の道程は十分に感じ取ることができた。



〈工夫して朗読しました〉

各人の詩の朗読後にアジ風のメンバーからコメントと質問がなされたが、日本人にとっても難しい質問も含まれていた。それをOB/OGが意味を咀嚼し翻訳して学生を支援しており、この活動における先輩から後輩への伝承が脈々と続いていることも感じた。そして、今回の発表者も上級学年になれば運営を行い、OB/OGになれば後輩を支援する様になるのだろう。大学では学問としての日本語を勉強しており、その領域を我々がカバーすることは出来ないし、する必要もないと考える。しかし、アジ風の方々の豊富な人生経験から伝えられる事、日本人だからこそ出来る事などを踏まえて、我々が言葉や文化や歴史を踏まえたトータル日本を示す事、そして、感じてもらう事が彼らにとって最も重要であるのではないかと思った。

(正会員 石橋 久)

＜お知らせ＞

発足17年となるNPO法人「アジアの新しい風」は、2009年に税制上の優遇措置が受けられる認定NPO法人と認められ、以後10年間活動して参りました。2019年は認定NPO法人の再審査の年でしたが、諸事情により認定基準に達しないとの指摘を受け、認定の申請を取り下げました。この結果、今後はご寄付に対して税額控除が受けられなくなったことをお知らせいたします。

今後もNPO法人として、従来同様の活動をしていきますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(理事一同)

I メイト交流

清華大学 I メイト交流会

10月22日、清華大学の学部生と大学院の留学生、そしてその I メイト合計25名が参加した。午前中は海苔巻きの実習で、自分で巻いた海苔巻きを試食。午後は江戸東京博物館を見学。日本語と英語のボランティアガイドをお願いし、効率よく見学できた。

親睦を深めた一日

架け橋グループと清華学大留学生の交流会に初めて参加。当日の課題は「巻きずし」の実習と江戸東京博物館見学。月島のマンションの一室に集合し、早々に準備を開始。男性会員もしっかりとエプロン姿にチェンジ。グループ分け後に調理法の説明を聞き作業開始。架け橋グループの参加者は9月に来日した学生が多く興味を持ちながら見ていたが、中国語への通訳もあったため料理手順は理解した模様。四苦八苦しながら巻いていたが、出来上がりは、細いもの、太いもの、具の少ないもの、偏っているもの、パンクしているものと様々。来日早々で日本語に苦労していた学生たちとも変形寿司を頼張りながら打ち解けあえた。このような共同作業は互いに打ち解けあうには非常に良い機会。是非とも続けてほしい。



江戸東京博物館ではガイドの説明を聞きながら館内を一周。当日は無料開館日で大変な雑踏の中、学生は興味を持ちながら色々見ていたが、興味を引いた一つは江戸の町のリサイクル、リユース。着物は最後には雑巾になり、それでもまだ終わらず蠟燭の芯になると聞き興味を示した様子。また糞尿の処理も感心していた。日本語専攻をしていない架け橋グループの参加者が主体のため、コミュニケーションには苦労したが、そこはお互い様。親睦を深める楽しい一日であった。

(正会員 富平 茂)

新しい友達のできるチャンス

東京での生活に少しずつ慣れてきたところに、日本文化への理解をさらに深められる交流会は、巻き寿司と江戸東京博物館が、日常生活と歴史の面において代表性のある、素晴らしいイベントでした。参加できてとても楽しかったです。

会場ではメンバーの皆さんが用意した材料が並んでいました。くじ引きで参加者たちを四つのテーブルに分けることとなっていたので新しい友達ができるチャンスがあって、よかったですと思いました。私は巻き寿司を作るのが苦手でしたが、材料の質が良いおかげで、あまり美しい形にできなくても美味しかったです。皆さんに教わりながら作った巻き寿司を食べ、たくさんお話をするのが最高でした。

午後の江戸東京博物館の見学もとても良い体験でした。ガイドさんがいたおかげで、江戸時代の歴史について大変勉強になりました。何よりも、今回の見学で日本の博物館の魅力がわかって、これからも東京の博物館を回って見学し続けることにしました。参加して話しかけてくれた皆さん、ありがとうございました！

(清華大学→東京大学 木 澄欣)



鎌倉 I メイト交流会

11月23日、大船の鎌倉NPOセンターで、中国、ベトナム、タイからの留学生とその I メイト合計25名が参加。午前中は藤井衛さんのご指導で切り絵を習い、年賀状やブックマーカーを完成させた。午後は3グループに分かれて、古畑仁一さんお手製のガイドブックを片手に鎌倉の町を散策した。

I メイト交流会に参加して

11月23日に開催された交流会に、I メイトのファム・タン・フォンさんとともに参加し、切り絵と鎌倉散策を楽しみました。

冷たい小雨が降る中でしたが、古畑仁一さん引率のもと、小グループで鶴ヶ岡八幡宮や長谷の大仏を散策しました。グループにはベトナム人4人が含まれ、いろんな話を聞くことができました。留学の目的意識、日本への考えなど、面白かったです。日本語が達者なのは驚き!! I メイトのフォンさんも、先輩と話ができ、参考になるところが多かったようです。

彼女は、湘南国際交流会のホームステイ（前泊）で日本の家庭の経験をして、感激していました。また、行きも帰りも片道約12時間の夜行バスを利用していたので、少し心配しましたが、それもふき飛ばすパワーで旅行を楽しんでいる様子でした。大学の講義では、漢字の専門用語を理解するのが大変のようなのですが、持ち前のパワーで乗り切っていると感じられて、心強かったです。

今回が初対面でしたが、お互いに理解を大きく深めることができました。貴重な機会を設定してくださった、事務局とコーディネータの皆様に感謝します。ありがとうございました。

(正会員 浮田 輝彦)



＜浮田さんとフォンさん＞

何もかも面白い体験

I メイトの交流会に参加し、いろいろなことを体験しました。22日に I メイトの浮田さんに会えました。一日間一緒に中華街で遊んで、暖かいチョコレートと美味しい昼食をいただきました。23日にアジアの新しい風の事務所で切り絵を作ってみて、可愛い葉書が出来ました。今度のお正月に使おうと思います。

午後鎌倉の観光に行きます。初めて電車に乗ったり、日本のお寺をお参りしたり、さまざまな像を見たりしました。初めてでしたから、何もかもとても面白かったです。

ホームステイも体験しました。最初はちょっと心配しましたが、ホームステイ先の下條さんと一緒に夕食の材料を買ったり、楽しく喋ったりして、早く仲良くなれました。あの夜、美味しい夕食を作って、布団をしっかりと準備してくれました。今までもあの鍋の匂い、あの部屋の暖かさ、まだ覚えています。

あいにく雨が降っていてとても寒かったですが、皆さんは優しくしてくれて、寒さも下がるみたいです。神奈川の寒さも面白い体験と思います。

(貿易大学→尾道市立大学 ファム・タン・フォン)



見えぬものでもあるんだよ

2019年10月19日午前中、タマサート大学の学生による朗読が行われた。Iメイト学生のほかに、総合日本語の学習者2年生と3年生も朗読コンテストに参加した。アジ風の会員による審査なので、学生たちはドキドキわくわく。指導に当たっていた山本由美子先生、山下春奈先生をはじめ、日本の大学のインターン生や留



〈2列目左端がタサニー先生〉

学から戻ってきたIメイト学生たちも会場へ応援に駆けつけてくれた。朗読後の審査員からの質問の時間には、初級の学生のタイ語による回答は、この特別なイベントのために来てくれた元Iメイト学生のナットニチャーさんやメティニーさんが後輩を思いやりながら通訳として大活躍。その姿を後輩たちも尊敬の目で見ていた。表彰状をいただいた時の学生たちの表情は素敵だった。晴天に恵まれ、午後のアユタヤ遺跡や寺院巡りも楽しめた。Iメイト会員の方々が学生たちを大切にしてくれたおかげで、この特別なイベントを無事に終了することができた。

朗読の課題にあったフレーズ「見えぬものでもあるんだよ」を実感できる素敵な一日だった。日常生活に戻ってからも、このフレーズが学生たちの心の底に残っているようだ。

(タマサート大学教師 タサニー・メーターピスィット)

私は日本人っぽい？

2011年から日本に留学し、もう8年余り日本で生活している私、日本人の友達に「全然外国人という違和感がない」と言われ、日本人以外の友達にも「日本人っぽい」とよく言われています。それは良いことか悪いことかまだ悩んでいます。



実は、「日本人っぽい」と言われると、少し嬉しいです。なぜなら、それは私が日本社会・日本文化を理解し、その社会に馴染んでいるという証だからです。但し、ベトナム人というアイデンティティが全くないと思われるとなんか気に障ります。

一方、私がよく聞いている「日本の学校・会社が積極的に外国人を受け入れる理由」の中「日本人と違う観点・違う発想で組織に変化を起こす」という期待があるそうです。では、ベトナム人の私も「日本人っぽい」で、考え方や発想も日本人に似てきたらその期待を全然応えられないではないでしょうか。それを考えると「日本人っぽい」と言われても、あまり嬉しくないのです。結

局、何人かということよりどのような人かの方が大事だと思います。(正会員/元Iメイト学生 チャン・トゥ・チャン)

留学の感想

2018年の秋から2019年の秋まで名古屋大学に留学しました。この1年間の留学のお陰で私の日本語能力が大きく上達したと感じました。どうやって上達できたかと言うとクラスで勉強するだけでなく、学業以外の活動、部活やアルバイトで交流する時間を増やし、できるだけ一日中日本語で話すことです。アルバイトはお金を稼げる活動という印象が強いのですが、私には日本語に慣れるための効果的な活動だと思います。ポイントは外国人の居ないアルバイト先を選ぶことです。私は毎日歯科医院でアルバイトをしていたので、よく日本語を使っていました。お陰で日本語能力試験の1級も取得しました。



帰国する前にIメイトの古海正子さんのお家に遊びに行った時「完全に日本人になったね!」と褒められて、すごく誇りに思っています。

今インドネシアにある日系IT企業に務めています。奨学金がもらえたら、大学院に進学して日本語学を勉強し、日本語学校を作るという夢を現実したいです。

(元Iメイト学生 レイニ ドウィ アングライニ)

交流会の一日

交流プログラムでは、午前中に切り絵を作りました。初めての経験で、集中力が必要な作業でしたが、とてもオシャレな手作りの切り絵葉書ができ、楽しかったです。

お昼ご飯の時間は、グループに分かれ、皆さんと一緒に食べながら、色々なことを話しました。久しぶりにIメイトの三木さんにも会えて、嬉しかったです。



午後は、鎌倉観光へ出発しました。あいにくの雨でしたが、私が通っている埼玉大学の周りとは違い、和風で、とても綺麗でした。また、初めて大仏の中に入り、その広さにびっくりしました。

夜は、江ノ島のイルミネーションを見に行こうと思いましたが、雨がなかなか止まず、周りも暗くて、寒くて、途中で諦めました。

「楽しい時間は過ぎるのが早い」と言いますが、それは本当でした。アジ風の皆さんと話ができて、新しい友達もできて、本当に参加してよかったです。今後も、このようなイベントがあれば、ぜひ参加したいと思います。

(タマサート大学→埼玉大学 タームボン・マースピモン)

会員紹介

藤井 衛さん

藤井さんは兵庫県揖保郡太子町の生まれ。奨学金を得て高校、大学、大学院に進学。高校時代に手にした聖書がきっかけでYMCAと関わり、大学・大学院は神学部。そこで人生の師となる人に出会うことになる。大学院では主に新約神学を学び、卒業後はYMCAで職を得た。50歳で早期退職をして病院経営に関わり、老人ホームの設置や組織改革など経営の立て直しをしたあと、中央区立特別養護老人ホーム「マイホームはるみ」の施設長として赴任した。ここでの一番の思い出は上皇ご夫妻が訪問され、施設内をご案内したことだ。

仕事から離れた現在でも、ボランティアで社会活動を続け、様々な提案を出し続けているが、夢は障害者自立支援の社会的企業を立ち上げることだという。

アジ風との出会いは2年前。大学同期の中村泰寿さんから、I

メイト交流の楽しみを聞いたことがきっかけである。「アジアの若者を支援し、自分もアジアを学ぶ」というアジ風の理念に共感して入会。現在は6人のIメイトと良好な交流をつづけ、年齢を超えた交流を楽しんでいる。また交流会でも趣味のカメラ撮影や切り絵の指導を引き受けるボランティア会員として大活躍。



〈海苔巻きに挑戦中〉

先日は日本・中国・韓国のNGO/NPOが参加する第10回東アジア市民社会フォーラムを企画し、中国語の同時通訳者を依頼したら、なんと元Iメイト学生の福山(旧姓 朴)阿英さんが同時通訳者として登場。素晴らしい仕事ぶりで、アジ風の元学生が日本社会で活躍しているのを目の当たりにして、感激もひとしおだったという。アジ風の将来については、現在の細い糸(草の根の交流)を太くすること、アジ風を持続・発展させるための会員獲得に協力したいと頼もしい。(インタビューー:奥山寿子)



架け橋グループは清華大大学院から東工大大学院に9月末留学。日本での生活リズムにも慣れてきました。会員とのIメイト交流は、一部英文が混じりますが順調です。会員との交流も街やレストランに、美術館や博物館に行くようになりました。交流会では巻き寿司作りを体験、江戸東京博物館で日本文化に触れました。次はミカン狩りを楽しむ予定です。アクティブな学生達との交流を通し、お互いの成長を目指します。
(コディネーター 松野芳夫)

石橋 順子さんと陸 映睿さんの交流

12月になってやっと陸さんと会うことができました。待ち合わせ場所はオープンしたばかりの南町田グランベリーパーク。夕方の5時に駅のスヌーピーの前でまずは写真をパチリ。すぐに夕食をとフードコートを見て回わり、陸さんは蕎麦と天ぷらセットを選びました。



〈スヌーピーと一緒に〉

カウンターに座って食事を待っている間、陸さんの作文の添削をするに。陸さんは熱心にメモを取り始めました。食事が来たのでいろいろな話をしました。お父さんは勤めているがお母さんは大抵の中国の母のように孫の世話に余念がないこと。卒業後は両親と一緒に住まず独立したいが、身内が近くにいと安心なので中国の会社に勤めたいこと、中国は都会と田舎の格差が大きいことなど。

日本の印象は街に英語の文字が溢れていること。私がデザートはどう?と勧めると、日本人は甘いものが好きですね、との返答。そういえば、今の日本は甘い物だけでなく、甘い誘惑にも満ち溢れた社会だなと内省しました。
(正会員 石橋 順子)

最初、日本での生活にうまく適応できませんでした。寮は学校から遠いし、自分で料理を作る必要があるし、日本語の会話あまり上手ではないから研究室の学友たちと話すのが恥ずかしかったです。アジ風の交流会では寿司の作り方を教えてもらい、江戸東京博物館へ見学に行きました。日本人は生活の細部に真摯に取り組んでいます。博物館は日本の歴史を知る窓です。日本文化の個性を理解するために、歴史から学ぶことができます。日本に来てからもう2か月余り、私はだんだん日本の生活に慣れて楽しむことができるようになりました。

東工大の研究室はとてもいい実験環境で、先生や学友と実験中の問題を検討することができます。休日には自分で面白い所をたくさん探します。上野の森美術館や東京都美術館、瀬戸内海芸術祭は芸術が好きな私にとってとてもいい思い出になりました。

日本で私を助けてくれた人、アジ風の石橋さんや皆様に本当に感謝したいと思います。
(Iメイト学生 陸 映睿)

川口 祐子さんと黄 宇さんの交流

黄さんとは、去年の4月から交流が始まりました。今まで清華大学の日本語学科の学生としか交流していなかったのが緊張しました。彼女は独学で日本語を学んでいますが、独学とは思えない位上手です。少しでも日本語の上達のお手伝いが出来たらと思います。

(正会員 川口 祐子)

こんにちは、私は黄宇と申します。東京工業大学の中国人留学生で、私のIメイトは川口祐子さんです。我々のメールの内容は天気、旅行や生活、その他には川口さんは私に日本での生活の注意事項を教えてくださいました。また川口さんは私の日本語を書き直してくれます。川口さんの助けで、私の日本語はだいぶ上達しました。

(Iメイト学生 黄 宇)

川口さん→黄さん 2019年8月6日

日本は梅雨が明けて、毎日暑いですが。温度が35度以上になると日本では「猛暑日(もうしょび)」と言います。25度以上ある夜を「熱帯夜(ねったいや)」と言います。というわけで暑くなったので海に友人と遊びに行きました。日本は海に囲まれているので夏=海(海水浴)とみんな考えます。北京は暑いですがね?黄さんは海で泳いだ事ありますか?中国にも海水浴場はたくさんありますか?

来月、成都に遊びに行きます。

黄さん→川口さん 8月10日

北京も最近非常に暑く、夜寝るときはエアコンが必要です。北京では最近雨が降っていますが、雨が降るのは好きではありません。

ビーチも大好きで、中国には海が見える場所がたくさんあります。でもアモイだけ行ったことがあります。

成都に遊びに来たら、私は鍋が好きですが、辛い食べ物を食べることに慣れていないなら、それはあなたにとって少し辛すぎるかもしれません。また、ジャイアントパンダは、中国の国宝であり、とてもかわいいです。



今後の主な行事予定 * 詳細はHPを参照

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 2月1日(土) | 新春交流会 世田谷区助成事業
於:昭和女子大学 |
| 4月5日(日) | 西日本Iメイト交流会
於:京都 |
| 5月23日(土)~26日(火) | ハノイ貿易大学訪問 |
| 6月20日(土) | Iメイト勉強会

環境保全活動(日程未定) |

● ● ● 編集後記 ● ● ●

令和二年新春。天平二年(1290年前)新春に大伴旅人は「わが苑に 梅の花散る ひさかたの 天(あめ)より雪の 流れくるかも」(巻5—822)と、白梅の花びらが散るさまを詠んでいます。新元号の基となった「梅花の宴」主催者です。当時は梅見が主流で、桜を愛でる花見はまだ先のことです。

今、小石川植物園では「ニュートンのリンゴ」「メンデルのブドウ」と名札を付けた木が冬を越そうとしています。あの「万有引力」を発見するきっかけとなったリンゴの直系子孫という木は青林檎を実らせませす。「メンデルの法則」の生みの親がチェコの修道院で育てていた木から枝分けされたブドウ。しかも本籍の木が枯れてしまったので日本から里帰りさせて元気に育っているそうです。どこかIメイト交流に似ているな、と思います。Iメイト達が様々な木に育ち花実を付けますように。
(原谷 洋美)